YONEMORI TIMES
Vol.89 2025.1.10 発行



代表取締役社長 米森 誠

あけましておめでとうございます。毎年のことですが、株式会社ヨネモリでは「安全第一」、そして「技術力向上」を目標に掲げて、昨年も1年間走り続けてきました。２０２４年を振り返って皆さんのご協力に感謝するとともに、２０２５年の展望についてもお話ししていきたいと思います。

２０２４年を振り返って

「安全第一」に関しては、やはり何にも代えがたい最優先事項です。6月には安全大会を開催し、安全への意識をさらに向上させました。また、安全についての会議を毎月開き、常に情報を共有して心がけを新たにしています。現場の安全パトロールは役職者が担当し、見落としのないように徹底。現場の皆さんにも、常に安全最優先で作業してもらっています。また、「技術力向上」については、毎年各人で目標を設定し、達成に向けて取り組んでいます。細かなチャレンジ項目も設定しているため、クリアのために日々努力している様子が一目瞭然でした。年間目標についても、80％ほどは達成できているのではないでしょうか。ただし、底上げはまだまだ必要ですし、今はスキルが高い人に業務が偏っているのも事実。仕事が平坦化できるように、今後もスキルアップを続けていく必要があるでしょう。

「安全第一」と「技術力向上」以外にも、細かい部分ではさまざまな取り組みをしてきましたが、問題や課題が出てきた際にはその都度改善や改良を重ねてきたため、大きな問題に発展することはありませんでした。これは、皆さんが頑張ってくださったおかげでもあります。改めて感謝申し上げます。

社員の成長を実感した実りある年に

２０２４年に皆さんの成長を感じた部分として、自分のためだけではなく、仲間や会社のためを思って行動してくれる人が増えた点が挙げられます。仕事に思い入れを持って取り組んでいるがゆえに、困っている人がいたら助ける、というような行動ができるようになってきているのではないでしょうか。

当社は、ほかの会社の方が工場見学に来たり、採用活動の中で事務所を訪問したりといった際に、「本当に雰囲気の良い会社ですね」などと言ってもらえることが頻繁にあります。これはひとえに、皆さんが協力し合って仕事をしてくれているからにほかなりません。ぜひ、この姿勢を今後も継続していただければと思います。

迷ったら、「これをされたら自分ならどう思うか」と考えてみてください。自分に矢印を向けて行動することによって、人は大きく変われるはず。「こうしてもらったら助かるな」と思ったことを積極的に実行してもらえれば、さらに良い職場になっていくでしょう。

２０２５年に向けた取り組み

２０２５年も引き続き、「安全第一」と「技術力向上」に取り組んでいく所存です。中でも今年は、各部門の勉強会、特に現場見学会に力を入れていきたいと考えています。

工事現場における当社の役目は、生産した製品を納入するまで。その製品がどのように組み立てられていくかは、目にする機会がなかなかありません。そこで現場見学会を企画し、製品のその後を確認できる場としていたのですが、ここしばらくは新型コロナウイルスの影響もあり、実施が難しい状況でした。最近は地元の案件もありますので、新たに現場見学会の予定を組んでいるところ。今後はさらにそうした学びの場を増やしていきたいと考えています。

皆さんへのお願いとしては、常にコストダウンを意識してほしいということ。いつもお話ししていることですが、会社と自宅を同じように考えてみてください。自分の家なら、使っていない部屋の電気を消す、エアコンがきいている部屋のドアを閉める、といった行動は当たり前ですよね。物価高が続く昨今、目標達成のためにも、各自でコストダウンについての認識を改めていただけると助かります。

最後に、これも何度もお伝えしていますが、仕事を楽しむことを忘れないでください。今以上に楽しむためにはどうすれば良いかを常に考えて行動してもらえれば幸いです。そして、行き詰まったときには先輩や同僚に相談しましょう。諦めたらそこで終わりですが、どのような難関でも、工夫次第で必ず解決策が見えてくるはず。手を取り合い、ともに進んでいきましょう！本年もどうぞよろしくお願いします。

企業情報

- ◆創 業 年：1918 年 5 月（大正 7 年）
- ◆設 立 年：1968 年 5 月（昭和 43 年）
- ◆年　　商：7041 百万円（令和 6 年 3 月）
- ◆従業員数：114 名（令和 6 年 3 月）

採用プロジェクトチームの挑戦

ついに始動した採用プロジェクトチーム！
今回は、全6名のチームメンバーをご紹介します。
最高の仲間探しのために、みんなで採用活動を盛り上げていきましょう！

私が採用プロジェクトチームを発足しました！



常務取締役 鉄構本部長
福田（ふくだ） 哲也（てつや）さん

わくわく

★採用プロジェクトの目的や生み出したい効果

会社の規模拡大に向けて、より多くの就活生に当社の魅力を伝え、一緒に当社を成長させてくれるような人材をより多く迎え入れることです。また、このプロジェクトを通して、若手の成長を促すことも目的です。

★発足に至った背景

業務拡大に伴う人材不足や、競争が激化する採用市場に対応するために発足しました。プロジェクトメンバーに若手を集めることで、就活生により近い立場で新鮮なアイデアを取り入れられると思っています。

★共に挑むメンバーへメッセージ

まずは、いつもありがとうございます！積極的に意見を出してくれる皆さんとなら、会社に貢献する素晴らしい組織を構築していけると信じています。通常業務を行いながらで大変なこともありますが、一緒に頑張りましょう！

どん！

意気込み

チーム一丸となり、多様な視点を尊重しながら斬新なアイデアを取り入れていきます！また、積極的にコミュニケーションを取り、改善案を素早く実行。常に進化し続けるチームを目指します。そして、このプロジェクトを通して、「若手の力」をお見せし、皆さんから「頼もしいな」と思っていただけるよう目標達成に向け精進いたします！



プレゼンの達人

本社鉄構部 副部長
古曽部（こそべ） 諭（さとる）さん

プロジェクト参加の理由

人見知りの自分を改善するための良い機会だと思い、参加を決めました。苦手分野を得意分野にできるチャンスだと感じています。「私も！」と思った方はぜひ声をかけてください！

意気込み

9/3

ストーリー性のあるプレゼンで心を動かす

会社の魅力を心に響かせ、楽しく仕事に取り組める人材を採用に繋げていきます！そのためには、いかに相手の興味に気づき、仕事のやりがいや楽しさを伝えられるかがポイントです。敏腕演出家が作るストーリー性のあるプレゼンについて、全員で意見を出し合い、最高のパフォーマンスができるチームを目指します！採用の幅を広げるためにも社内改善に積極的に取り組み、環境整備にも力を入れていきたいと思っています。



我等PJTのホープ

現寸設計部
白崎（しらさき） 佑和（ゆうや）さん

プロジェクト参加の理由

前職で人に携わる仕事をしていたため、その経験を活かして会社に貢献したいと思い参加しました。

意気込み

前職での経験を活かして全力投球！

私の経験を活かし、メンバーとの協力を大切にしながらチームの目標達成に貢献できるよう全力を尽くします。共に成長し、成功を収めるために積極的にアイデアを出し合い、コミュニケーションを大切にしていきましょう！

ナイネ！



なんでもこなす敏腕家

総務部 課長
木戸口（きどぐち） 明菜（あきな）さん

プロジェクト参加の理由

ありがたいことにプロジェクトメンバーに抜擢されました。メンバーから新しい発想や情報を聞くと、知らないことも多く、置いていかれないようにと内心必死です。今後どのように皆さんの力になっていけるか日々考えさせられています！

意気込み

興味を惹くわかりやすい求人が理想

採用のプレゼンは未経験ですが、より良いものにするための準備に注力していきたいと思っています。ブースの装飾などを工夫し、ヨネモリを知らない人達が見たときに、何の求人なのかをパッと見で分かりやすくできれば、足を止め応募してくれる人が増えるのではと考えています。



敏腕演出家

現寸設計部
竹村（たけむら） 洸亮（こうりょう）さん

プロジェクト参加の理由

数年前に少し採用活動に携わっていたこともあり、福田常務と古曽部副部長からお誘いをいただき参加を決めました。前に出るのは苦手ですが、資料作りが好きなため、裏方として会社の成長に貢献できればと思っています！

意気込み

長期的な目線でより良い職場作りを目指す

採用をゴールとせず、新入社員の育成と定着を見据えた活動をしていきたいと思います。そのためにも各配属先の仕事・育成環境の改善や、会社の風土といったことにもメスを入れていき、社員みんながいきいきと仕事に取り組める仕組みを作るのが当面の目標です。会社全体を巻き込んで盛り上げていけたらと思います。



うら若き仲介人

現寸設計部
東（ひがし） 桃花（ももか）さん

プロジェクト参加の理由

チームリーダーである古曽部さんに、「気分転換がてらチームに入らないか」と提案されたことがきっかけです。また、学生時代にSNSを使って学内の宣伝活動をしていた経験があるため、その知識を活かせるのではと思い参加しました！

意気込み

活動を通して個人の成長にも繋げていきたい

チームメンバーそれぞれの持ち味を活かし、より良い採用活動になるよう頑張ります。また、これまでの経験を活かしつつ各部署と連携を取りながら、しっかりと成果が残せるよう最善を尽くしたいと思います。このプロジェクトに全力で取り組むことで、自分自身も成長していくことが目標です。